

令和7年度

自己評価

川村中学校・川村高等学校

川 村 小 学 校

川 村 幼 稚 園

令和7年度 自己評価

川村中学校・高等学校

1 教育目標

豊かな感性と品格

自覚と責任

優しさと思いやり

2 本年度の重点目標

(1) 知・徳・体の調和の取れた教育の実践

(2) 三位一体の教育を実践

(3) 中高6年間を見通した教育の実践

(4) 一人一人を生かす教育の実践

(5) 進路を見据えた教育の実践

3 評価表

* 評価基準 (A: 十分達成している B: おおむね達成している C: やや不十分である D: 不十分である)

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・ 建学の精神・教育方針 ・ 校務分掌組織 ・ 職員会議等の運営	A	成果：職員会議・成績会議等を通して共通理解を図り、組織が活きて働く仕事分担となっている。 課題：学校経営計画の作成をし、計画に基づき更なる学校の活性化に繋げる。
	②研究・研修	・ 研究組織、計画 ・ 授業改善への取り組み ・ 研究会への参加	B	成果：生徒に授業アンケートを行い、授業の課題を確認した。 課題：研究授業の実施、研修会への参加を積極的に行い、授業の充実に努めていく。
	③保健・健康管理	・ 保健、安全計画 ・ 安全点検 ・ 緊急時の対応	A	成果：危機意識をもって保健指導が成された。 課題：感染症への予防対策に注意を払い、今後も引き続き様々な状況を想定して見直しを図っていく。
	④情報管理・施設設備管理	・ 個人情報の管理保護 ・ 施設設備の管理 ・ 施設の有効活用	B	成果：個人情報の管理については良好であった。安全点検を通して、管理および行き届いた施設管理ができた。 課題：施設管理については、メンテナンスを必要とする箇所がいくつかあり、引き続き改善を図っていく。
	⑤一貫教育	・ 学校公開の実施 ・ 学校情報の発信 ・ 小中高の連携	B	成果：ホームページ等のSNSを通して情報の発信をすることができた。 課題：小学校との連携を強化するため、クラブ活動における連携を継続して実践していく。また小学6年生を対象の確認テストを通して小中の教科内の連携をより強化していく。
II 関連する教育活動	①教育目標・教育計画	・ 教育目標の周知 ・ 教育計画の作成 ・ 教育活動の評価	B	成果：教育目標に基づき、教員一人一人が意識をして取り組んでいる。 課題：日々の学校生活の中で、生徒に自覚を促すよう工夫を凝らして指導する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
Ⅱ 教育活動に関するもの	②教科指導	・指導計画の立案 ・指導方法の工夫改善 ・評価、評定の工夫	B	成果：各教科で話し合いながら、授業の充実を図った。不登校の生徒にはオンライン授業を実施し、学びの機会に繋げた。 課題：新しい教材やＩＣＴを活用して、深い学びとなるようにしていく。また、評価方法については引き続き検討・改善をしていく。
	③道徳・特別活動	・指導計画の立案 ・授業の充実 ・生徒会活動	B	成果：スポーツデー・鶴友祭・宿泊学習等において生徒の主体的な活動、および能動的に行動する姿勢を支援した。 課題：行事だけではなく、学校生活全般を活性化させるための主体的な活動を考えさせ、実践させていく。
	④総合的な時間の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫改善	A	成果：学年毎のテーマ中1「地球環境」中2「国際理解・国際交流」中3「自覚」高1「共生」高2「平和」高3「自立」に基づき、豊かな発想を導きプレゼンテーション力をつける指導ができた。 課題：個々が問題意識を持って深い学びができるよう指導する。
	⑤生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対応 ・教育相談	A	成果：学年会を通して、教員間での共通理解をし、迅速な対応と指導ができた。問題行動に対しても、教員間で共通理解をし、早めの対応をし解決に繋がった。 課題：生徒の問題に対する共通認識と寄り添った指導の充実を一層図るよう努める。
Ⅲ その他	①三位一体の教育	・保護者との連携 ・生徒理解 ・コミュニケーション	A	成果：保護者との連携を図りながら、生徒一人ひとりへの指導ができた。 課題：指導に対する保護者への理解を図り、スピーディーな対応をしていく。
	②キャリア教育	・指導計画の立案 ・中学３年生の実践 ・高校１年生の実践	B	成果：中3と高1では、系統立てたキャリア教育を実践した。希望者に対し、提携している大学のキャンパスツアーを実施した。高1・高2では河合塾による進路講演会を行い、目標に向けた取り組みについて確認した。また、学部別系統説明会を行い、視野を広げる機会となった。 課題：一貫校としての進路指導の充実および高校生の進路指導の充実を図っていく。高校では自習室を整備し、進学に向けた個々の取り組みを支援する。
	③防災教育	・指導計画の立案 ・避難訓練等の実践 ・伝達システム	A	成果：様々な想定に基づく訓練を、改善しながら実施することができた。 課題：危機意識を持った訓練となるよう工夫をする。教員は生徒の安全を守るべく適切な行動がとれるよう研修をしていく。
	④学校給食（会食）	・安全安心への対応 ・アレルギー対策 ・環境衛生の管理	A	成果：アレルギー対応と感染症予防への対応が丁寧にかつ正確に行われた。 課題：配膳時を含めた会食指導への更なる充実を図っていく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
Ⅲ その他	⑤鶴友会活動（部活動）	・クラブ活動の運営 ・クラブ活動の指導 ・クラブ合宿	B	成果：日頃の活動や合宿等において、生徒の主体的なクラブ活動が行なわれていた。 課題：外部指導者による技術指導によりクラブ活動の充実を図ると共に活動日数や引率の適正化のもと教員の負担を軽減していく。
	⑥鶴友会活動（諸係り）	・諸係りの運営 ・活動内容の充実 ・活動内容の改善	B	成果：仕事内容についての分担化を図って活動をしていた。 課題：諸係の各部会や各リーダー会の実施により主体的な活動を指導する。

4 総合評価

- * 生徒の自主的な活動を後押しし、生徒が協働して学ぶ能動的な取り組みができた。
- * 個々の進路希望に基づく指導ができた。
- * 教員全員が共通認識をもって各学年・学級目標に基づく指導ができた。
- * 各行事において教員の共通理解のもと、改善を図りながら生徒の主体的な取り組みを支援することができた。
スポーツデーや鶴友祭では、生徒による実行委員会を組織の要とし、安全に運営することを見守りながら、生徒の発案による様々な企画が実施され、学校全体が活気付いた。
- * 三位一体の教育を実践することができた。
- * 月間目標の意義を考察し、日々の生活の中に活かしていけるよう指導した。
- * SNS等により円滑な人間関係が構築できなかったり、家庭での親子関係に悩んだりする生徒がおり、スクールカウンセリング等を利用しながら、対応策を講じていた。
- * 教員の連絡事項は教員朝礼meetや教員連絡掲示板を通して確認し、共通理解を図ることができた。

5 来年度への改善策

- * 情報の収集と研修・研鑽を積み、さらに教育・進路指導の内容の充実に取り組む。
- * 一人一人の生徒が持つ能力の助長を図るための授業展開を行う。
- * 授業の充実を図るため、授業改善を意識して研修と研鑽を積極的に行う。
- * 高校において新指導要領での学習が一巡し、より効果的で能動的に学べる教授方法を確立させる。
学習状況の充実と一人ひとりの進路の把握に努め、生徒の希望する進路を実現していく。
- * 広い選択肢の中から進路を考えることができるよう、適切な情報を収集、発信する。
- * 一貫校としての進路指導および高等学校の進路指導の充実を図る。
- * 検定合格に向けての意識を更に向上させ、高2までに目標級の取得ができるよう引き続き指導していく。
- * 外部試験において、進路の実現に向けての取り組みを段階的に考え取り組んでいく。
- * 進路講演会を行い、必要な情報を提供する。学習の進め方についてもアドバイスをし、意識の向上に繋げていく。
- * 小中高の連携を図ることで、一貫校としての特性を活かした教育の推進を図る。
- * 鶴友会クラブならびに鶴友会諸係において、生徒の主体的な活動を支援する。
- * 今まで取り組んできたICT化を、今後もIT機器を活用した授業の充実および教員一人一人のスキルアップを図っていくことにより、多様な学び方を通して、生徒一人一人の学力の助長を図っていく。
- * 教員一人ひとりが自覚と覚悟をもって、日々の生徒の学習指導・生活指導・進路指導にあたる。
必要な情報を取捨選択しながら、前進していくための会議を運営していく。
- * 各自の職務を遂行していくため、教員の意識向上をさらに図る。
- * 教室に足が向かない生徒への支援をより丁寧に行い、生徒の自己肯定感の助長を図る。

令和7年度 自己評価

川村小学校

1 教育目標

- 生き生きとした子（やさしい心）
- 健やかな子（じょうぶな体）
- 自ら学び自ら考える子（かしこい頭）

2 本年度の重点

3 本柱の構築

- （１）英語教育（実用英語技能検定奨励）
- （２）水泳指導（6年間の目標設定）
- （３）情報教育（4年生iPad導入）

3 評価表

* 評価基準（A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である）

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・建学の精神・教育方針 ・校務分掌組織 ・職員会議等の運営	B	成果：校務分掌など、各々の仕事分担を分かりやすいものにすることで、効率の良い時間の配分が可能となった。 課題：今後も引き続き、学校経営理念、方針等継続実践の見直しを図りたい。
	②研究・研修	・研究組織、計画 ・授業改善への取組 ・研究会への参加	B	成果：東初協研修会に参加したり、教科会を実施するなど、授業改善への取り組みを実施した。 課題：学内での研修会を行うなど、より授業を改善できるような取り組みを実施したい。
	③保健・安全管理	・保健計画、安全計画 ・安全点検 ・緊急時の対応	B	成果：各学年に応じた内容で安全教室を実施するなど、安全に対する意識づけをすることができた。 課題：怪我や病気の児童に対し、まず通院を検討するなど学校としての対応をより強化、徹底し取り組んでいく。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理保護 ・施設設備の管理 ・施設の有効活用	B	成果：教員間でデータを共有することで、共通認識を持って業務に取り組んでいる。施設設備については、不具合が起きたらすぐに修理点検をしている。 課題：情報処理能力向上を目指していきたい。施設管理については、不具合が起きる前に対応できるようにしていきたい。
	⑤一貫教育	・学校公開の実施 ・学校情報の発信 ・小・中・高の連携	B	成果：コロナで中止していた鶴友会クラブを再開し、鶴友祭では、公演で中高部活動と一緒に発表することができた。また、後夜祭にも参加した。 課題：英検対策講座の早い復活が望ましい。

領域	評価項目	評価の観点		
Ⅱ 教育活動に関するもの	⑥教育目標・教育計画	・教育目標の周知 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価	B	成果：コロナの収束に伴い、新たな視点での見直しをしながら、安全安心に、充実した学校生活を送ることができるよう様々な活動を開始した。 課題：学校における生活の安定と向上を目指したい。
	⑦教科指導	・指導計画の立案 ・指導方法の工夫改善 ・評価、評定の工夫	B	成果：教科会で教科指導内容の共有を図っている。研修会の内容を振り返り、教科指導に役立てている。 課題：情報処理技術を向上させ、よりよい教科指導につなげていきたい。
	⑧道徳・特別活動	・指導計画の立案 ・授業の充実 ・児童会活動の活性化	B	成果：誕生会を毎月実施し、各学年が企画して誕生者をお祝いした。児童会活動も積極的に行い、児童委員の鶴友祭の参加など、自主的な活動が見られた。 課題：児童の自主性を大切にし、教員が型にはめることなく取り組む必要がある。
	⑨夢科学習	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫改善	A	成果：自然環境の変化も激しく、その中で宿泊学習をよりよくするため、毎回内容を吟味しながら進めている。希望者のサマーキャンプ、スキースクールも参加者が多く集まり、積極的に取り組んでいる。 課題：今後もそれぞれの見直しを重ね、より充実した宿泊学習を構築していく。
	⑩児童指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対応 ・教育相談	A	成果：毎週実施される学年会での情報交換で、問題への早い対応が可能となっている。 課題：様々な問題を抱えている児童が多くなっているようである。家庭との協力、およびスクールカウンセラーとの有効な連携がこれまで以上に必要な現状である。
Ⅲ その他	⑪三位一体教育	・保護者との連携 ・児童理解 ・コミュニケーション	A	成果：家庭との連絡を密にすることで、問題を小さなうちに解決できた。 課題：子ども同士のコミュニケーション不足と、高学年のトラブルへの適切な対応が臨まれる。
	⑫英語教育	・指導計画の立案 ・各学年の実践 ・英検対策講座	B	成果：教科書活用と家庭での音読練習が身に付いているのではないかなと思う。英検受験者も増加している。 課題：具体的な効果と今後を見据えた指導方法の提示。英検対策講座再開を検討する必要がある。
	⑬防災教育	・指導計画の立案 ・避難訓練等の実践 ・伝達システム	B	成果：幼小中高の設備点検を行うとともに避難訓練を実施し、大規模災害に対する備えの準備を進めることができた。 課題：心配される自然災害に対し、あらゆる対策を講じ、児童の安全・安心を最大の目的とした取り組みを常に心がける。自然災害への危機感を常に持ち、教師も児童も自身の命を守る行動を身につける。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
Ⅲ その他	⑭会食指導等	・ 安心安全への対応 ・ アレルギー対策 ・ 環境衛生の管理	A	成果：アレルギー対応を徹底し、家庭の協力を得て、大きな事故もなく過ごしている。 課題：今後もマナー指導など、教員により偏ることのないよう、共通の意識を持って取り組んでいく。
	⑮鶴友会活動等	・ クラブ活動の運営 ・ 放課後活動の運営 ・ A S の運営	A	成果：放課後活動利用者が増加し、有意義な活動となるよう、進めていくことができた。A. S 受講者も増加している。 課題：受講者のニーズに応えた内容となるよう、環境設定も含めて検討を継続していく。

4 総合評価

※学校行事などはコロナ前に戻すとともに、新たな視点から、小学校にて心と体と頭の健やかな成長を促す、子ども達に寄り添いながら、身に付けてもらいたい力や経験してほしい体験活動を掘り下げ、具体的な教育活動に生かしていきたいと考えている。教科指導においては、各教科でのICT化を展開することで学びの場をより充実したものにしていく。時代に合わせた対策や見直し、創意工夫により、常にニーズに寄り添う姿勢を大切にしたいと考えている。

※宿泊学習や社会科見学など、学外で行う行事について、教育課程に基づき、よりよい内容となるよう企画立案をした。

5 来年度の改善策

※「学習習慣」「基本的生活習慣」「家庭での学習習慣」の3つの確立に向け、学校全体で指導を重ね、落ち着いた安全で安心なげのない学校生活を目指す。

※人間関係をスムーズに構築するため、日常生活や道徳の授業などを通して、相手の気持ちを推し量ることの大切さを教えていく。

※放課後活動の参加者が年々増しており、A. Sや学習サポートを充実させていく。

※放課後活動の一環として、鶴友会クラブを再開させ、中高部活動との連携を図ることができた。今後も、より充実させていく。

※英語教育では、オールイングリッシュで過ごすEnglish Challenge Programをより一層充実させていく。

※英検合格を目指し、英検対策講座を再び開講することと同時に、教科書（スマイル）の活用を今一度検討し、より英語力の底上げを図る。

※4年生から導入となる1人1台のiPadの活用をもっともっと活性化させるべく、活用ルールの徹底と教師の研修にも時間を費やすよう意識を高める。

※外部研修会や個人研修を利用した講習への参加に積極的になるよう呼びかけ、それぞれのスキルを高めようとする意欲を喚起したい。同時に、年間1人1回の研修を受けることを奨励する。

※日本の伝統文化に触れ、女性として豊かな知性と感性を磨く機会として、茶道の授業を設けた。内容を検討しながら、より充実した時間となるようにする。

令和7年度 自己評価

川村幼稚園

1 教育目標

豊かな「こころ」

のびやかな「からだ」

工夫する「あたま」

2 本年度の重点

(1) 集団の中で伸びやかに

(2) 始めの一步を緩やかに

(3) 行事を通して健やかに

3 評価表

* 評価基準 (A: 十分達成している B: おおむね達成している C: やや不十分である D: 不十分である)

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 幼稚園運営に関するもの	①組織運営	・ 建学の精神・教育方針 ・ 職務分掌組織 ・ 職員会議等の運営	A	成果：学園の理念を伝えながら、それぞれの家庭に寄り添い対応してきた。会議ではしっかりと話し合い、共通の理解を得ている。 課題：今後も全園児が安全安心に通園できる環境が備わるよう努めたい。
	②研究・研修	・ 研究組織、計画 ・ 保育改善への取組 ・ 研修会への参加	A	成果：個人での研修会の参加を通して、保育への理解を深めた。100玉そろばんの研修を受け、小学校につながる算数の第一歩を学んだ。 課題：全員の共通理解となるよう、発表や話し合いを行う。
	③保健・安全管理	・ 保健計画、安全計画 ・ 安全点検 ・ 緊急時の対応	A	成果：各校とともに、AED実技講習会、エビペンの講習や、刺又などの不審者対応実技講習会を行った。 課題：体力増進、けが防止のための食と運動による体づくりと、安全安心な園生活を過ごすよう工夫する。
	④情報管理・施設設備管理	・ 個人情報の管理保護 ・ 施設設備の管理 ・ 施設の有効活用	A	成果：日々身の回りの点検をおこない、安全安心な園生活を行えるように努めた。 課題：今後も常に園児の活動の安全安心のため、細心の注意を払い、日々の保育を行う。
	⑤一貫教育	・ 保育公開の実施 ・ 幼稚園情報の発信 ・ 幼・小・中・高の連携	B	成果：園児の様子を見ていただける保育参観や、Instagramを利用し普段の様子を写真での発信を行った。 課題：小中高との連携は年齢的に難しいが、交流の場を持てる機会をつくって行く。また職員が小中高の魅力を知って、伝える努力をする。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
Ⅱ 保育活動に関するもの	⑥保育目標・保育計画	・保育目標の周知 ・保育計画の作成 ・保育活動の評価	A	成果：毎月の園だよりなどの配布物で保護者へ伝えていきながら、園児の状態みてで計画を立てることができた。 課題：基本的生活習慣の徹底に努めていく。
	⑦保育指導	・指導計画の立案 ・指導方法の工夫改善 ・評価、評定の工夫	B	成果：園児ひとりひとりに気を配り、登園に不安なく、元気に楽しく過ごせるよう、声掛けを行った。 課題：翌日の登園に期待を持って、ポジティブな気持ちで帰れるよう、配慮する。
Ⅲ その他	⑧三位一体の教育	・保護者との連携 ・幼児理解 ・コミュニケーション	A	成果：送迎時にクラスや子どもの様子を伝える時間を設け学期ごとの面談を行い、具体的に園での様子を知っていただいた。 課題：一人ひとりの園児への理解を深め、保護者から信頼される、幼稚園を目指す。
	⑨防災教育	・指導計画の立案 ・避難訓練等の実施 ・伝達システム	A	成果：毎月の避難訓練を実施した。園外への避難、本部との連絡連携など、いろいろなシチュエーションの訓練を行った。防災用品の交換なども随時行っている。 課題：大地震の際の訓練にも力を入れ、教職員間の連携も行っていく。
	⑩給食指導等	・安心安全への対応 ・アレルギー対策 ・環境衛生の管理	A	成果：家庭と協力しながら、安全安心な食生活を送ることができた。 課題：食事の環境を整えていく。
	⑪保育後の活動等	・預かり保育の運営 ・A S の運営	A	成果：預かり保育は16時まで行い、多くの園児が利用している。保護者のニーズに応え、ASの参観や発表を行ない、多くの保護者が参加した。 課題：預かり保育の帰り時間やASの科目について、いろいろなご意見があるため、検討し、令和8年度より実施予定である。

4 総合評価

- * 行事を通した製作活動にも力を入れ、子どもたちが自分の力でいろいろなことができたと感じられるようサポートをしてきた。キンダーファミリーパーティー、鶴友祭、発表会などでは、友だちと協力しながら、自分の意見を伝えたり友だちの声に耳を傾けて、楽しんでいる姿が見られた。
- * 園庭の花や木々などの自然に興味を持ち、保育室で様々な生き物の世話をした。ちょうちょの幼虫を見つけ、羽化までを見守り、ヤゴがトンボになるのを見届け、友だちの持ってきたザリガニを世話したりして、生き物の生態にも触れた。
- * 英語のカリキュラムの導入により、英語を身近に感じる機会が増え、簡単なあいさつや自己紹介をしてみたり、歌や読み聞かせを聞いて、英語の世界を楽しんだ。

- * 給食が全日提供になったことで、毎日安全安心の給食の時間を過ごした。また試食会を行い、保護者にも給食への理解を深めることができた。
- * 未就園児企画「プチキンダー」「2歳児ステップアップコース」は幼稚園に慣れ、母子分離の機会としては最適だった。一方、母子分離の練習として通う方もいたので、運営委方法に検討が必要である。

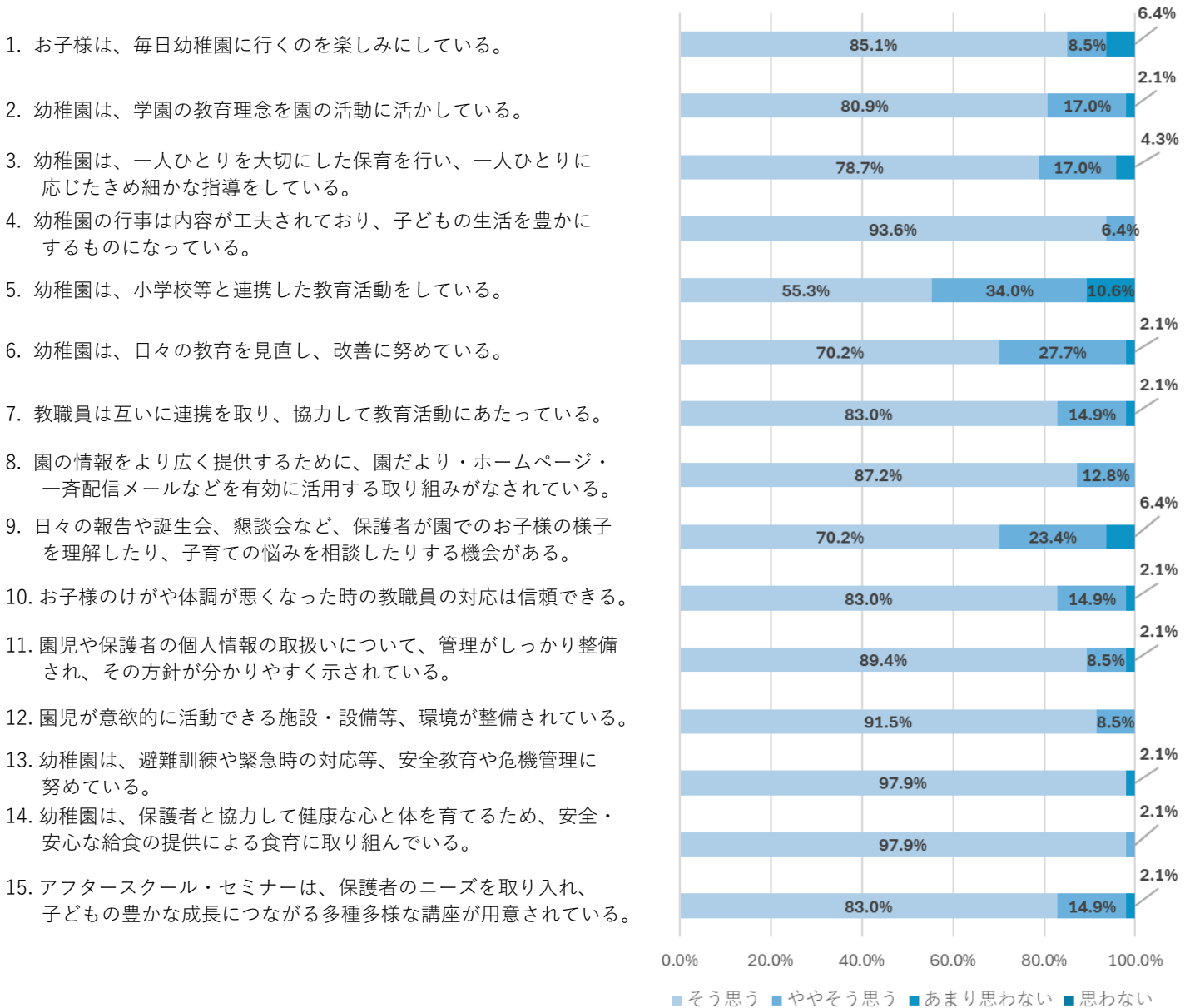
5 来年度の改善策

- * ニーズに応え、預かり保育の時間延長（最長17時30分）やASのクラスの増設を行い、幼稚園での時間をより充実させていく。
- * 保育後の時間を豊かするために、ASのない水曜日に、ワークショップという形で日本文化に親しめる講座（華道、茶道、書写）を準備し、行っていく。
- * 既存の行事も保護者の見学や参観ができるよう、検討していきたい。

【保護者アンケート結果】

実施時期：令和7年12月9日（火）～14日（日） 回答数：47名（回答率68.1%）

評価： 4 そう思う 3 ややそう思う 2 あまり思わない 1 思わない



【学校関係者評価評価委員会の評価】

* 令和8年3月27日（金） 評議員会

川村幼稚園は、令和7年度においても学校法人川村学園の建学の精神に基づいた教育活動を誠実に展開している。保護者アンケートでは全15項目中13項目で95%以上の肯定的回答を得ており、自己評価でも11項目中9項目がA評価（C・D評価はなし）となるなど、高水準の満足度がその成果を端的に示している。

特に、安全教育・危機管理、食育・給食、行事を通じた教育活動は保護者から100%の支持を得ており、本評議員会としても高く評価する。また、英語カリキュラムの導入や自然体験の充実といった質的向上への取り組みも認められる。一方、小学校等との一貫教育・連携、保育指導の質的向上、基本的生活習慣の確立、保護者との連携深化、保育後活動の充実・柔軟化の5点が重点課題として抽出された。これらは来年度の改善策に反映されており、令和8年度の取り組みへの期待が高まる。